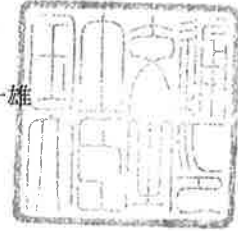


認定書

国住指第1883号
平成 16年 11月 16日

日鐵建材工業株式会社
代表取締役社長 小山 巖 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第三号(屋根:各30分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-0103
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
普通鋼製デッキプレート屋根
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

普通鋼製デッキプレート屋根

2. 寸法

屋根の各辺の長さについては、構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法とする。

3. 材料構成等

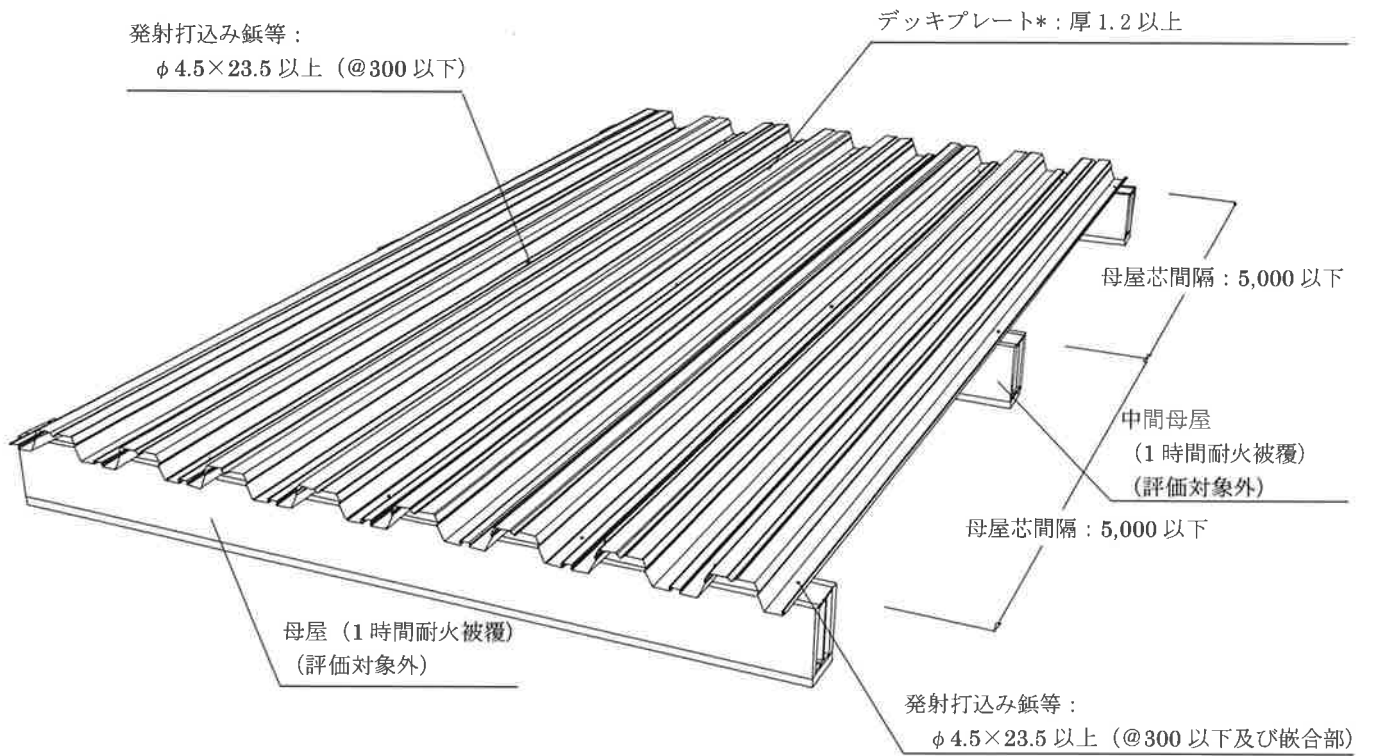
項 目		製 品 仕 様 等
主構成材料 (デッキプレート)	規格	JIS G 3352
	種類	・ 普通鋼 (SDP1T、SDP1TG、SDP2 及び SDP2G) ・ 耐候性鋼 (SDP3)
	厚さ (mm)	1.2 以上
	質量 (kg/mm・m ²)	7.85 ± 0.05
	表面仕上げの種類	・ 表面仕上げ無し ・ 無機質系錆止め塗装 ・ 溶融亜鉛めっき ・ 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき ・ 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき ・ 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき ・ 溶融亜鉛-0.5%マグネシウム合金めっき ・ 溶融亜鉛-6%アルミニウム-3%マグネシウム合金めっき ・ 上記以外の溶融亜鉛系めっき
	大きさ (mm)	山高さ：75 ± 1.5 働き幅：600+8, -2 長さ：最小 100、最大 12,000
	母屋芯相互の間隔 (mm)	5,000 以下
	支持方式	連続支持 (2 スパン以上)
副構成材料	ねじ等	発射打込み鋸 規格：JIS A 5529、建築材料認定番号 MPIN-9001 または 9002 寸法 (mm)：φ 4.5 × 23.5 以上 ドリリングタッピンねじ 規格：JIS B 1055、JIS B 1059 または平成 12 年建設省告示第 1446 号に規定するタッピンねじ 寸法 (mm)：φ 5.0 × 19 以上
デッキプレートの幅方向の接合方法	留め付け間隔等	発射打込み鋸 留め付け間隔 (mm)：300 以下 ドリリングタッピンねじ 留め付け間隔 (mm)：300 以下 焼抜き栓溶接 溶接直径 (mm)：18 以上 溶接間隔 (mm)：300 以下

項 目	製 品 仕 様 等
デッキプレートの施工方法	<p>デッキプレートを施工する母屋芯相互の間隔が 5,000 mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて母屋に配置し、次のいずれかの方法で母屋に接合する。デッキプレートの長さ方向の相互は嵌合により接合する。</p> <p>①発射打込み鉋による接合 発射打込み鉋(φ 4.5 × 23.5 mm 以上)でデッキプレートを母屋に留め付ける。発射打込み鉋の留め付け位置はデッキプレートの谷部とし、留め付け間隔は、幅方向が 300 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。ただし、両端母屋の幅方向の嵌合部は、上記の発射打込み鉋で母屋に留め付ける。</p> <p>②ドリリングタッピンねじによる接合 ドリリングタッピンねじ(φ 5.0 × 19 mm 以上)でデッキプレートを母屋に留め付ける。ドリリングタッピンねじの留め付け位置(両端母屋の幅方向の嵌合部を含む)及び留め付け間隔は、前記①と同様とする。</p> <p>③焼抜き栓溶接による接合 焼抜き栓溶接(溶接直径 18 mm 以上)でデッキプレートを母屋に溶接する。溶接位置(両端母屋の幅方向の嵌合部を含む)及び溶接間隔は、前記①と同様とする。</p>

4. 構造説明図

(1) 見取図

(単位 : mm)



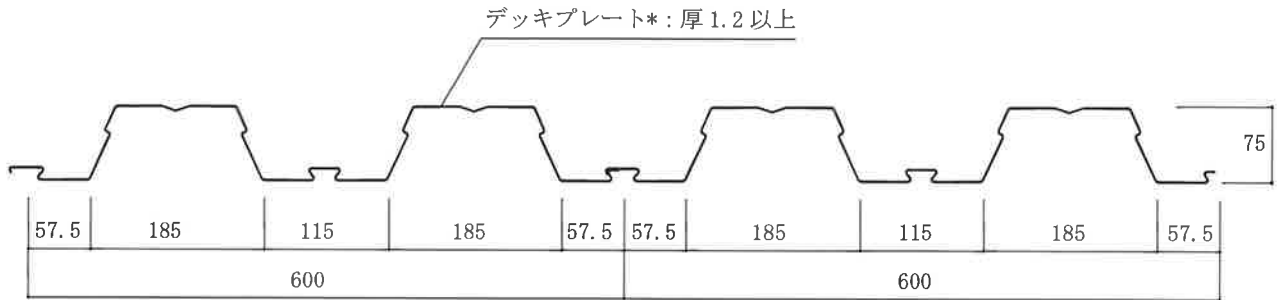
*デッキプレートの種類は、JIS G 3352 で規定する普通鋼又は耐候性鋼とする。

※母屋に耐火被覆材を施工する場合は、上フランジにも耐火被覆を施す。

(2) 断面図

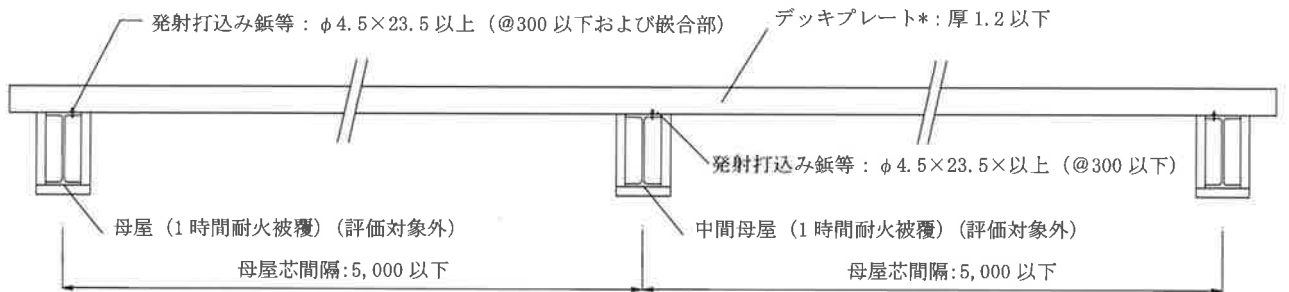
①幅方向断面図

(単位：mm)



②長さ方向断面図

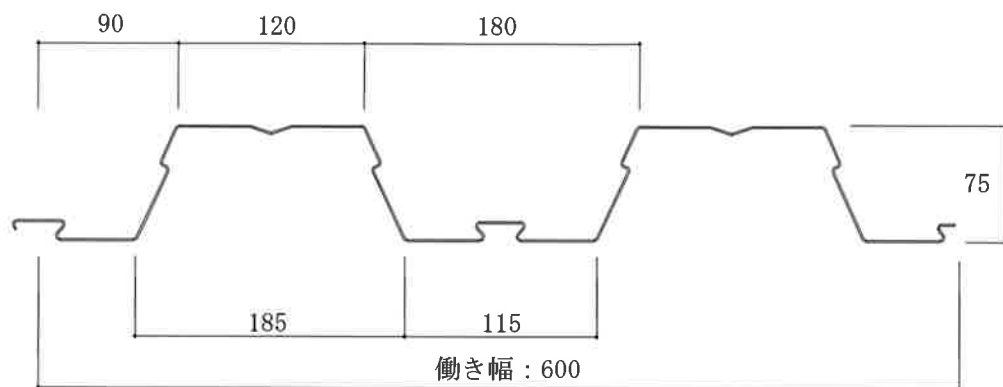
(単位：mm)



*デッキプレートの種類は、JIS G 3352 で規定する普通鋼又は耐候性鋼とする。

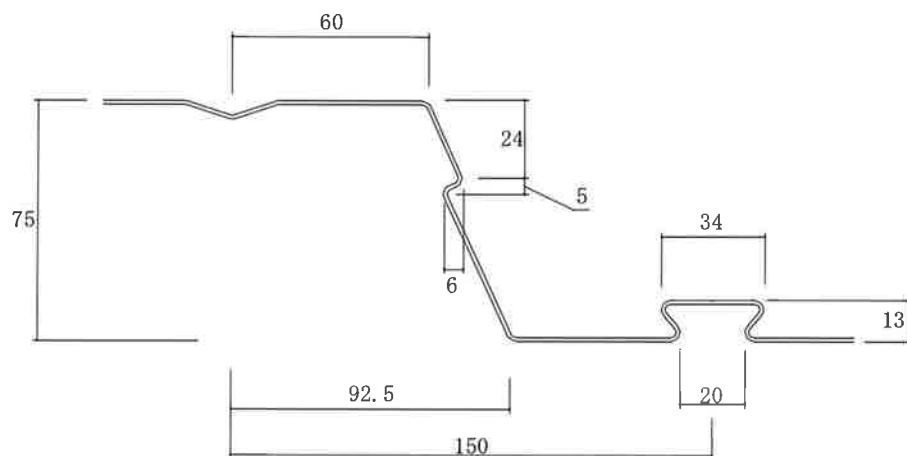
(3) デッキプレートの形状・寸法

(単位：mm)



(4) デッキプレートの詳細・寸法

(単位：mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの取付け

デッキプレートを施工する母屋芯相互の間隔が 5,000 mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて母屋に配置し、次のいずれかの方法で母屋に接合する。デッキプレートの長さ方向の相互は嵌合により接合する。

① 発射打込み鋸による接合

発射打込み鋸(φ 4.5 × 23.5 mm 以上)でデッキプレートを母屋に留め付ける。発射打込み鋸の留め付け位置はデッキプレートの谷部とし、留め付け間隔は、幅方向が 300 mm 以下、長さ方向が 600 mm 以下とする。ただし、両端母屋の幅方向の嵌合部は、上記の発射打込み鋸で母屋に留め付ける。

② ドリリングタッピンねじによる接合

ドリリングタッピンねじ(φ 5.0 × 19 mm 以上)でデッキプレートを母屋に留め付ける。ドリリングタッピンねじの留め付け位置(両端母屋の幅方向の嵌合部を含む)及び留め付け間隔は、前記①と同様とする。

③ 焼抜き栓溶接による接合

焼抜き栓溶接(溶接直径 18 mm 以上)でデッキプレートを母屋に溶接する。溶接位置(両端母屋の幅方向の嵌合部を含む)及び溶接間隔は、前記①と同様とする。

(2) 母屋の耐火被覆

母屋に 1 時間の耐火被覆を施す。ただし、平成 12 年建設省告示第 1399 号第 4 第三号ニの規定に該当する場合には、上記の耐火被覆は必要としない。